

週日の説教

金 大烈 神父 2009年2月5日(木)

《ご聖体やマリア様に対する気持ち》

カトリック信者には、これができなければ信者とは言えないくらい大切な "3つのこと" があります。その "3つのこと" とは何でしょうか。

まず、「ご聖体に対して持っている信仰」です。

二番目は「マリア様に対しての信心」です。信仰と信心の差はご存知ですよ。信仰は、全知全能の神様を信じることです。しかし、私たちは、マリア様を信じるわけではありません。マリア様についてのいろいろなことを信じているのです。マリア様だけでなく、いろいろな聖人達の教えなどがありますね。そういうものを信じることは、信仰とは言いません。信心と言います。

三番目は「殉教の精神」です。

この3つを軽んじてしまうと、その教会は必ず崩れます。ご聖体を強調しなければあらゆる秘跡が崩れてしまいます。秘跡が崩れれば、カトリックの正体性(アイデンティティ)が崩れてしまいます。

もし、ミサをあまり捧げたくない司祭がいれば、それは死んだ司祭です。ミサの大切さを信徒に教えることができなければ、それは間違えた司祭です。その司祭は必ず倒れます。そして、司祭はご聖体から全ての意味を探すのです。ご聖体にイエス様の働きを感じながら、生きる力をいただきます。皆様も、カトリック信者とは言いながら、ご聖体に対して実感がなければ、まだまだ本当の信者とは言えません。

二番目、私たちの母であるマリア様を軽んじてしまい、他の人に誇りを持って紹介することができなければ、それも私たちにとって恥になります。ですから、いつも口ザリオを繰り返してください。それがカトリック信者の本当の姿です。

三番目、殉教の精神なしには、カトリック共同体の生活はできません。殉教は、相手のために自分が "死ぬ" ことです。"死ぬ" と言うのは、刃を受けることだけではありません。自分に憎しみを与えるものがあっても、その人のために代わりに祈ってあげる、そういう心も殉教です。正しくないものを見て逃げてしまうのは、殉教精神に逆らうことです。正義、愛、平和の全てがこの殉教の精神によって支えられています。

イエス様は、福音の中で、「私が教えた全てのものを全ての人に述べ伝えなさい」と11人の弟子達に言われました。その初めの宣教から時が流れて、1549年には宣教師フランシスコ・ザビエルが初めて日本に入ります。そして、いろいろなキリスト教の種を蒔きました。更にそれから400年以上が経ち、今のカトリックの姿を見せています。

宣教師達が自分の国を離れて宣教地に遣わされる時について、様々な物語が伝えられています。たとえば、イエズス会では、殉教された人々の写真が集まっている聖堂に入り、「明日私も先輩宣教師たちに従って、死ぬために行きます」という覚悟の祈りを捧げてその国を離れたと聞きました。そして、その祈りのようにたくさんの殉教者が出たわけです。このような徹底的な精神がなければ、たぶんわずかな風にも倒れてしまうでしょう。

皆様、今日は、26人の聖人が殉教されたことを記念する日です。本当にわずかなことでもイライラしてしまう私たち、本当にわずかなことでも人を憎み、よくない考えを持ってしまう私たち。この信仰のために、命を捧げてくださったいろいろな聖人達のことを考えてみますと、私たちは恥を感じなければならないと思います。

このミサをとおしてもう一回、確かめましょう。私たちは本当にご聖体やマリア様に対しての気持ちをきちんと持てているのでしょうか。そして、殉教の精神をしっかりと表せているのでしょうか。

ありがとうございました。